

令和8年度石教研国語(小)部会

研究ガイド

令和8年6月発行 編集・文責:部会研究員 村井(千歳市立信濃小)

第29期は研究主題を、「資質・能力を育成する言語活動の創造」とし、「話すこと・聞くこと」領域における研究を進めました。授業者をはじめとし、各サークルの多彩なアイデアを生かして授業研究を進め、「教える授業」から「学び合う授業」への転換が見られました。また、ICTを効果的に活用した実践も数多くあり、言語活動を充実させるためのツールとして機能していたと感じます。

第30期では、教科書の改編に伴い、まだ石教研国語(小)部会として研究が進んでいない「読むこと」領域の「文学的文章教材」に焦点を当てた研究となります。令和7年度は2カ年計画の1年次目として、国語科における「個別最適な学び」について理論と実践の両面から大きな成果を得ることができました。特に「個別最適な学び」の捉えについて活発な話し合いがなされました。2年次目となる令和8年度は、1年次目で培った「個別最適な学び」から「協働的な学び」へ重点を置き、授業実践を進めていきます。また、2カ年計画の最終年度でもあるため、「個別最適な学び」「協働的な学び」が「主体的・対話的で深い学び」につなげられたか検証を行いたいと考えています。(詳細は「はまなすNo1」をご覧ください)

以下に指導案形式を提示いたします。各サークルでの研究協議にご活用ください。

(参考)

令和8年度の研究について

I 研究主題

生き生きと学びながら資質・能力を身に付けられる国語科授業の創造
～「読むこと」教材における言語活動や学習計画の工夫を通して～

II 研究仮説

言語活動や学習計画を工夫し、個別最適で協働的な学びを通して、国語科における資質・能力が身に付くだろう。

III 研究領域

「読むこと」領域の「文学的文章」における「精査・解釈」「考えの形成」の場面

IV 研究の柱

- (1) 児童にとって魅力的な言語活動の設定の工夫
- (2) 「精査・解釈」「考えの形成」の場面における「協働的な学び」の工夫

V 研究方法

- (1) 令和7～8年度の2カ年計画で行う。
- (2) 中心サークルを設け、石教研第二次研究協議会において授業提言を行う。

(3) 各市町村サークルは、主題の解明を図るために、部会研究を進める。

(4) 実技理論研修会を開催する。

1. 指導案の統一形式

※「統一形式」には、記載すべき項目の基準を示しています。各サークルにおいて、必要に応じて項目を加除修正し、より良い指導案作成に取り組んでください。

第〇学年 国語科学習指導案

作成者 ○〇小 ○〇〇

1. 単元名「○○○○」 教材名「○○○○」

2. 単元の目標

目標：「主たる目標」：学習全体を見通して、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」について示して下さい。

言語活動：指導書より

3. 言語活動

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習指導要領〔知識・技能〕の内容を参考に記入してください。	学習指導要領〔思考・判断・表現〕の内容（読むことの指導）を参考に記入してください。	子どもたちの主体的に取り組む姿を観察できる評価規準を考えてください。

5. 児童の実態

6. 指導する学習内容について

(1) 教材について

(2) 学習内容

(3) 個別最適で協働的な学び

※今年度は協働的な学びが重点

(1) 教材のねらい、特徴などを指導書を参考に記載する。

(2) 学習全体を見通して、指導書や、「はまなすNO.1」の「IV研究方法」の表にある、「言語活動例」を参考にしながら記入する。

(3) 単元の中で「個別最適で協働的な学び」をどのように位置づけるのかを記入する。

7. 単元の指導計画

時数	目標	学習内容
1	「はまなすNo.1」第30期研究計画で説明した「協働的な学び」とは、多様な他者との対話を通して学習が深まることを意識した学習活動を★印で記載する。	★印で「協働的な学び」◇「個別最適な学び」を明記。
2		★協働的
3		◇個別最適
4		
5		★協働的

8. 本時について

(1) 本時の目標

(2) 本時の展開

	児童の活動	教師のはたらきかけ	留意点・評価
導入			
展開			
まとめ			

(3) 板書計画

9. 資料～ワークシートなど

2. 指導事例①

※上記の形式を踏まえ、ここでは、6年生の指導案を例として示します。

第6学年 国語科学習指導案

作成者 ○ ○ ○ ○

1. 単元名 「登場人物の生き方について、考えたことを話し合おう」
教材名 「海の命」

2. 単元の目標

- (1) 比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知)
- (2) 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思)
- (3) 自らの生活経験や生き方・考え方などと照らし合わせ、それぞれの生き方について考えることができる。(学)

3. 言語活動 ・それぞれの人物の生き方に対する考えを話し合う。

4. 評価規準

指導事項配列表にある「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に沿った目標を設定する。

知識・技能	思考・判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。	・人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。	・積極的に文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、学習の見通しをもってそれぞれの人物の生き方に対する考えを話し合おうとしている。

5. 児童の実態

- ・(学力、意欲面など、全般的な実態と、国語科、「読むこと」領域の実態とに分けて記載。また、身につけさせたい力を併せて記述する。)

6. 指導する学習内容について

(1) 教材について

- ・海を舞台に中心人物である「太一」の成長と彼を取り巻く複数の大人たちとの関係が描かれている。一人の人間の成長には、周囲の人間の存在や「太一」にとっての海やクエのように、環境や事物・事象が大きな影響を及ぼすこともある。物語を通して生き方や考え方に共感を覚えたり、自分とは違うと感じたりしたことを交流し、読みを広げたり深めたりさせたい。観点を選択し読み深め、人物の生き方や考え方について伝え合い、考えを広げることに迫りたい。

(2) 学習内容

- ・物語について想像を広げ、全文通読後に自分の考えた「問い」を交流し学習の見直しをもつ。
- ・会話、様子、心情描写、情景描写から「太一」と「太一」に関わる人物の関わりについて図に整理する。
- ・同じ観点、異なる観点で交流し、交流を通して考えの変容に気付いたり、広げたりする。
- ・「海の命」に込められたものについて考え、それぞれの人物の生き方と自分の考えをまとめ、グループ交流をする。

(3) 個別最適で協働的な学び

◇個別最適な学び

- ・「太一」に関わる周囲の人物たちの言葉を「太一」がどう受け止めていったか根拠をもとに読み深めたり、想像したりするために、「父」「与一じいさ」「母」「瀬の主」観点から選択する。

★協働的な学び

- ・叙述をもとに、「会話」「様子」「心情描写」「情景描写」から共通点や相違点を比較したり、関連付けたりしながら読みを深め、毎時間グループ交流を設定し、言語活動につなげる。
- ・グループ交流の際は、全文シートに交流した箇所に線を引き、交流したことを可視化する。
- ・同じ観点同士、異なる観点でグループ交流し、共通点や相違点に気付けるよう、交流する前とした後の変容を捉えられるワークシートを工夫する。

この単元を通して資質・能力を身に付けるためにどのような「個別最適な学び」「協働的な学び」を取り入れるかを記載する。

7. 単元の指導計画

時数	目 標	学 習 内 容
1	・物語を読み、 題を設定し、 きる。	指導計画では、授業の具体的なイメージをもてるように学習のメインとなる活動について「個別最適な学び」「協働的な学び」かを記載する。
2	・物語の構成 どうしの関係 る。	を立てる。 ★個別最適 を定める。 ◇協働的
3	・自分が選んだ観点を基に「太一が周り からどのような影響を受けたのか」につ いて考えを持ち、伝え合うことができる	・周囲の人物とのかかわり方が「太一」の 生き方にどのような影響を与えたのかを読 み取る。 ◇協働的
4 (本時)	・自分が選んだ観点を基に「瀬の主をと らなかつた太一」について考えを持ち、 伝え合うことができる。	・「太一」が「瀬の主」をとらなかつた理 由を考える。 ◇協働的
5	・自分が選んだ観点を基に「太一にとつ ての海」「海の命」とは何かについて考 えをまとめることができる。	・「海の命」とは何か、その言葉にこめら れたものなどを考え、まとめる。 ★個別最適
6	・それぞれの生き方と関係づけて交流を 通して考えをまとめることができる。	・考えをグループで伝え合う。 ・学習をふり変える。 ◇協働的

8. 本時について

(1) 本時の目標

- ・「太一」が「瀬の主」をとらなかった理由を考え、「太一」の考え方の変化を捉える。

(2) 本時の展開

	児童の活動	教師のはたらきかけ	留意点・評価 ◇個別最適 ★協働的
導入	<p>1 前時までの確認 読み取る手立て 会話 様子 心情描写 情景描写</p> <p>着目する観点 父 与一じいさ 母 瀬の主</p>	<p>○「太一」が影響を受けた人々について確認をする。</p> <p>○手立てや観点の確認をする。</p>	<p>○前時までの学習を掲示する。</p>
<p>② 「太一」が「瀬の主」をとらなかった理由について考えよう。</p>			
展開	<p>2 「太一」が「瀬の主」をとらなかったことがわかる箇所を見つける。</p> <p>3 「太一」が「瀬の主」をとらなかった理由を考える。</p> <p>4 グループで交流する。</p> <p>5 全体交流</p>	<p>○「本当の一人前の漁師」という言葉に気付かせる。</p> <p>○「太一」の気持ちが大きく変化した箇所に気付かせる。</p> <p>○選んだ観点「父」「与一じいさ」「母」「瀬の主」から「太一」の思いを考える</p> <p>○観点が同じ人のグループで交流</p> <p>○観点が異なる人とグループで交流</p>	<p>◇誰と学ぶか、どの観点で学ぶかを選択できるようにする。</p> <p>★誰と交流するかを何度か繰り返し多様な意見に触れられるようにする。</p>
まとめ	<p>6 本時の振り返り</p>	<p>「精査・解釈」「考えの形成」の場面における「協働的な学び」の工夫や方法を具体的に明記する。 *本時の場合は、グループ交流の方法を記載</p>	

(3) 板書計画 (省略)

指導計画、本時の目標や内容によっては必ずしもまとめとしないこともあり得る。

9. 資料～ワークシートなど (省略)

以上が、指導案形式のガイドラインです。これをもとに各サークルで検討を重ね、実践内容にふさわしい形式に修正していただければと思います。 【文責：研究員 村井 彩夏(千歳市立信濃小)】